



# 果試ニュース

第9号 平成10年11月



## ヒヨドリ

この冬、カンキツ園への  
飛来が多いと予想されている。  
(果実の鳥害防止試験実施中)



## 新規課題「特産カンキツの商品性向上技術確立試験」について

温州ミカンの栽培面積は、かつて需給調整のために減らしてきた経緯はあるが、最近では主力産地の優良な園地さえ放任されているのが見受けられるようになった。その原因は担い手の高齢化や後継者のいないことによるところが大きい。

この傾向に歯止めをかけるため、そして少ない労力を有効に活かして経営向上を図るためには、園内作業道をつけて、小型運搬車を導入するなど、軽労働省力化を進めることが効果的であり、また後継者の確保にもつながるものと考え、果樹試験場では園内作業を楽にできるような栽培体系について検討を重ね、その実証試験を展開してきた。

しかし一方では、オレンジ等輸入果実の増加や消費多様化の進展、殊に消費者嗜好は高品質で個性的な果実を求めるなど市場動向や消費傾向をみて、これに即応した産地の生産流通体制を整備していく必要がある。

つまり、温州ミカンを基幹品種としながら、外国産果実に対抗して消費を喚起できるような品種を組み合わせるなど、多様に市場対応していかねばならない。

試験場としても、こうした地域特産の品種構成と収穫出荷時期の長期化による作業体系の改善と長期出荷型の高品質生産技術体系の実証試験に、柑橘生産農家の経営向上に役立つように意を込めて取り組むことにした。

場長 向井 武